

会報



◇史学会総会

五月三十日 於六〇一教室

奈良大学史学会の第二回総会が行なわれた。水野会長のあいさつのあと、昨年度の事業、会計、会計監査の各報告が異議なく行なわれた。ついで、本年度役員人事および予算が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九八四年度の役員は、つぎのとおり。

▽会長 水野柳太郎 副会長（本年度は不置）

▽監事（会計監査） 堀内一徳 松山宏

▽教員委員 鎌田道隆（運営・編集） 菅野正（会計）

森田憲司 守山記生（庶務）

▽学生委員 村上温子 吉江信子（以上四回生） 亀田昌

樹 小原浩美 杉森節子 谷川幸宏 寺川滋 豊福孝 中

西順子 萩原真理子 浜田京子 原田敬久 松下哲也 望

月一志（以上三回生） 大東仁（二回生）

◇春季講演会 五月三十日 於六〇一教室

五月三十日午後一時三〇分より二時間半にわたり、奈良

大学史学科、奈良大学史学会共催による左記のような特別講義が六〇一教室で行なわれ、多数の学生が参集した。

大阪大学助教授 川北 稔氏

世界システム論と社会史—戦争と犯罪と移民と

奈良女子大学教授 中村 幹雄氏

ヒトラー研究の現況

◇卒業中間報告会 十二月十五日 於六〇一教室

今年度は、秋期見学会のかわりに、卒業研究の中間発表会を行なうことになり、十二月十五日午後一時から、本学六〇一教室において実施された。一・二回生も含め総勢五十数名が参集し、熱のこもった報告と討論が行なわれた。報告者と論議は左のとおり。

日本史 脊古真哉 律令制度と伊勢神宮

吉江信子 京都町奉行の職制と民政

西洋史 橋野育子 スペインの新大陸植民地支配

東洋史 酒井保固 宋代の都市と庶民の演芸

◇一回生委員の追加

教員・学生合同委員会では一回生委員が必要との意見があり、一回生各クラスから次の諸氏が学生委員として選ばれ

た。

井原康代 多田暢久 中原康 山田浩之

◆ 会員動向

○西洋史(近・現代)担当の青木芳夫氏は、奈良大学教員国外研究として、西洋史の現地研究および史料調査・収集のため、一九八四年四月一日から一九八五年三月三十一日まで一年間、ペルーを中心に中南米に滞在中である。

○東洋史(前近代)担当の森田憲司氏は、四度目の台湾訪問をされ、一九八四年七月十九日から二十六日までの一週間、台北・台南市等で、民俗資料および地方文献の収集にあたられた。

○東洋史(近代)担当の菅野正氏は、資料収集のため、一九八四年八月七日から一ヶ月、中国(北京・南京・上海等)へ出張された。

○日本史(古文書学)担当の堀池春峰氏は、一九八五年一月一日付をもって東大寺で発足する東大寺史研究所の所長に就任される。

昭和五十九年(三月・九月)史学科卒業論文

〔考古〕

須恵器製作集団の研究

太田 正康

国東型宝塔の研究

桑原 幸則

円筒棺及び埴輪棺の研究

小宮 猛幸

—畿内及び東海地方について—

横穴式石室考

富山 直人

近世墓地の研究

藤原 学

—大和米谷町において—

〔日本史〕

秋田城の研究

荒川 秀子

受領国司について

金原 京子

—その成立期を中心に—

奈良朝政治情勢の一断章

倉元 俊明

—宮都変遷を廻る留守官の動向—

律令における土地制度の研究

栗栖 育之

—律令時代の土地所有権に関する一考察—

律令軍事制度の研究

黒島真一郎

—軍団制を中心として—

造東大寺司廃止をめぐる政治情勢

佐々木勝宏

天平期における遷都問題

田中 克典

国史と郡司の関係について

田辺 裕子

平安時代初期における皇后について

谷山 恭子

—橘嘉智子を中心に—

八世紀における藤原氏の動向

辻 克美

—武智麻呂と房前—

「蝦夷」に関する一考察

永田 洋

—黒川以北諸郡について—

古代土地制度の一研究

西島 満

—令前における田積法と租法について—

日本古代の地方政治の研究

橋本 雅裕

—長岡遷都前後の情勢を通じて—

長岡遷都考

福井 克司

光仁・桓武朝における藤原氏について

藤田 慶子

—藤原官子の大夫人号—

奈良朝における大夫人について

堀場 俊秀

—「延喜式玄蕃寮」の新羅入朝記事を中心に—

古代外交の一考察

真嶋 伸吾

—史料検討よりみた飛鳥寺—

古代の遷都に関する一考察

宮谷 玲子

日本古代の対外関係について

村井 恵美

—七世紀後半の国内状況からみた対外関係—

律令制成立期における讓位について

柳原千恵子

奈良時代末期の律宗をめぐる僧侶の動向

横山 雅基

—法進・思託・如宝を中心に—

奈良朝末期における廢后・廢太子事件について

吉岡 洋子

☆ ☆ ☆ ☆

武士の政界進出

竹本 秀尚

—源氏を中心として—

足利義滿と世阿弥元清

田端 忍

伊予海賊村上氏について

津田 初義

中世の女性

寺口 一美

—法にみる女性財産のあり方と女性観について—

中世民衆の動向

唐仁原絹代

—前期の農民結合を中心に—

中世山陰の領主制

永井 隆博

—鎌倉時代出雲国一宮杵築大社を素材とした
領主制の基礎的考察—

南 泉

中世の経済

—延暦寺と小幡商人と保内商人の争論にみられる延暦寺の権威についての—考察—

花上 美穂

中世興福寺の農民統制

—大和布留郷一揆を通じて—

藤木 玲子

戦国時代の本願寺

藤原 智子

中世の民衆

丸田 悦子

中世初期農村の諸問題

—農民の生活を中心に—

森本 麻子

『吾妻鏡』にみられる北条義明

—北条執権政治の形成期として—

山野 正美

中世の商人

—美濃紙商人の性格変化と東山文化—

山本恵美子

東山文化と足利義政

—その背景と義政の立場について—

山本美佐子

織田信長的美濃経営について

—信長稲葉城攻略の時期についての—考察—

安田千恵美

信長の政治政策

—幕府・朝廷との関係から將軍権力についての—考察—

吉田 千景

延徳期の丹波国人一揆をめぐって

神谷 博明

近世初期に於けるキリスト教の伝来と

その禁制について

市田 典浩

近世守口宿の構造と機能

井筒 孝二

織豊政権の都市政策について

岩本 啓子

—京・堺を中心に新興商人の出現をめぐって—

近世中期における幕府財政再建策についての

考察

片岡 久明

—米穀政策を中心に—

越前若狭の近世初期豪商に関する総合研究

印牧 信明

奥羽列藩同盟の結成と東北戦争について

大野 治郎

近世後期における「老農」の役割について

橋高 光昭

織田政権における支配体制の考察

工藤 一略

近世後期における老農の農村復興運動について

—大原幽学の農民指導とその思想—

斎藤 憲一

豊臣政権における文祿慶長の役の歴史的意義

築地 和明

石山戦争の歴史的意義について

山本 直紀

豊臣政権における軍事構造について

米沢 雅人

別子銅山煙害問題

天田 知之

☆ ☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆ ☆

近代日本医療史

—実費診療所の事業及役割—

自見豊茂子

日本フアンシズム期における思想統制

—臨時教育会議について—

田中 佳子

大正期に於ける労働問題について

—大阪市電及び大阪電燈各労働争議の一考察—

中島ひろ子

日本帝国主義による朝鮮植民地支配

—日本国内における反朝鮮植民地論の展開過程—

長沢 豊文

第一次世界大戦における極東問題

—日本軍欧州派遣問題について—

藤井 秀憲

佐賀県における政治及び産業への一考察

—幕末から維新期における佐賀藩の動向について—

古川 岳司

奈良県における国家総動員体制の展開

—農地改革における農業経営問題—

山本 修平

〔東洋史〕

五代の華北政権について

—馮道と後周政権の先進性—

奥村 紀樹

中国明清時代における手工業の発達と資本主義

萌芽問題について

—景徳鎮における窯業—

木村 昌弘

中国の民間信仰

富永 康秀

—関羽信仰について—

漢と匈奴

藤田 季絵

—匈奴の冒頓単于より漢の武帝に至る交渉史—

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

太平天国の革命運動

—革命の意義—

三野 修

義和団事件について

—義和団の起源—

三宅 章弘

辛亥革命期における革命宣伝物について

—革命派と改良派の性質と『民報』と『新民叢報』の論争を中心として—

森山 智雄

五胡十六国時代について

安田 博文

〔西洋史〕

ローマ共和政の崩壊

—大土地所有制と奴隷の反乱—

岩田 信彦

＜イギリスから見た＞十九世紀のヨーロッパ

経済

—イギリス産業、貿易構造の変化とその盛衰—

寄吉 修

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

オーストリア継承戦争と七年戦争を中心とする

一八世紀の国際関係

畦元理恵子

—オーストリア、プロイセンを中心として—

東欧諸国の変遷について

河合 克俊

—一五世紀から一八世紀のポーランド・ハンガリー・ボヘミアにおける—

ユダヤ教史とキリスト教史の比較

衣笠 敦子

—バビロン捕囚とアビニオン捕囚を中心として—

フランス絶対王政の形成

糸野 妙美

スペインの展開

小山 浩司

—一五世紀から一六世紀を中心にして—

一六世紀後半のイングランド社会

五島 容美

ゲルマン部族国家の性格

中川 浩一

ノルマン人の進出と展開

山田 真宏

アングロロサクソン社会の成立と展開

横井 憲五

イギリス社会経済の変貌

和田 早代

☆ ☆ ☆ ☆

文明と曆に関する一考察

奥田 良雅

アメリカ黒人史についての一考察

翁長 雅代

征服ペルーについての一考察

笠井 敬子

先スペイン期アメリカにおける宗教儀礼

桐原 和子

—アステカ社会を中心に—

一九二〇年代アメリカに関する一考察

佐々木 健

アメリカ自動車王国

中川 晃治

—フォード社の軌跡—

ナチス・ドイツにおけるユダヤ人

福田 淳

アメリカ帝国主義成立にいたる過程

山本 恭子

受贈雑誌 (自一九八四年一月至十月)

史艸(日本女子大学史学研究会) 第二四号

モンゴル研究(日本モンゴル学会) 第一四号

聖心女子大学論叢第六二集、第六三集

中央史学(中央史学会) 第六、七号

アジアアフリカ言語文化研究(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 第二六号、第二七号

鷹陵史学(仏教大学歴史研究所) 第一〇九号

モンゴル研究(大阪外国語大学モンゴル研究会) 第二〇七号

西洋史学報(広島大学西洋史学研究室) 復刊一〇号

海南史学(海南史学会) 第二一、二二号

年報中世史研究(中世史研究会)第八、九号

東洋史苑(龍谷大学東洋史研究会)第二二、二三号

史観(早稲田大学史学会)第一〇九〜一一一冊

東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要第六号

横浜市立大学論叢人文科学系列(横浜市立大学学術研究会)

第三四卷第二・三合併号

歴史民俗研究(帝塚山大学日本史研究室)第二号

上智史学(上智大学史学会)第二八号

史苑(立教大学史学会)第四三卷第一号

史学(三田史学会)第五三卷第二、四号、第五四卷第一号

徳川林政史研究所研究紀要(徳川黎明会)昭和五七年度、

五八年度

史叢(日本大学史学会)第三二号

ふびと(三重大学歴史教室・同研究会)第四〇、四一号

宇大史学(宇都宮大学史学会)第四号

青山史学(青山学院大学文学部史学科研究会)第七号

法政史学(法政大学史学会)第三五、三六号

立命館史学(立命館史学会)第三、四号

法政史論(法政大学大学院)第八〜一〇号

アカデミア人文・社会科学編(南山大学)第三九、四〇号

鹿大史学(鹿兒島大学)第三一号

東海史学(東海大学史学会)第一八号

民具マンスリー(神奈川大学日本常民文化研究所)第一六

巻第一〇〜一二号、第一七巻第一〜五号

史泉(関西大学史学・地理学会)第五九号

キリスト教史学(キリスト教史学会)第三七集

千葉史学(千葉歴史学会)第四号

岡崎市史研究(岡崎市史編さん委員会)第六号

明代史研究(明代史研究会)第一二号

奈良県立民俗博物館研究紀要第八号

史窓(京都女子大学史学会)第四〇、四一号

歴史人類(筑波大学歴史・人類学系)第一二号

史海(東京学芸大学史学会)第二九、三〇号

資料館紀要(京都府立総合資料館)第一二号

日本文化史研究(帝塚山短期大学日本文化史学会)第六、

七号

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史学研究室)第

一六号

東洋大学文学部紀要第三七集

龍谷史壇（龍谷大学史学会）第八四号

堺女子短期大学紀要第一九号

岩手史学研究（岩手史学会）第六六、六七号

愛知大学文学論叢（愛知大学文学会）第七五輯

秋大史学（秋田大学史学会）第三〇号

歴史（東北史学会）第六二輯

学習院大学史料館紀要創刊号、第二号

富士論叢（富士短期大学学術研究会）第二九卷第一号

三井文庫論叢第一七号

熊本史学（熊本史学会）第六〇・六一号

歴史と文化（東京大学教養学部歴史学教室）第一五号

地域研究いたみ（伊立市立博物館）第一三・一四号

北大史学（北大史学会）第二四号

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要第一号

山形史学研究（山形史学研究会）第二〇号

御影史学論集（御影史学研究会）第九号

編集後記

◇昨年の十二月、第一号の編集後記を書いていたころには、昨冬二度目の大雪で、奈良の街も野も山も一面の銀世界であった。あれから一年、第二号刊行の時期を迎えた。だが、奈良はまだ今冬の雪を見ていない。

◇第二号は、松山・鎌田両専任教員のほか、非常勤の森紀子・松川克彦両先生および本学卒業生の森元文子さんのご協力を得て、ようやくまとめることができた。ページ数の方が当初予定より若干オーバーして九〇ページ代となり、財政面で相当心配されたが、これも印刷所および史学会々計の努力で、うまく切り抜けることができるようである。

あらためて関

係各位の御協

力と御援助に

対し心から、

御礼を申しあ

げたい。

（鎌田）

奈良史学 第二号

一九八四年十二月発行

奈良市宝来町一三三〇

奈良大学文学部内

発行者 奈良大学史学会

会長 水野柳太郎

電話 〇五三〇一―二五二（代）

振替 大阪九―三二五九九番

印刷所 （有）藝林美術出版社